

広報

# あかいけ

# 11

第19回国民文化祭・ふくおか2004

とびうめ国文祭

# 美術展 陶芸

すえ 陶の里で出会う創造と感動

展示期間／11月6日(土)～14日(日)

展示会場／上野の里ふれあい交流会館

陶の里シンポジウム【入場無料】  
「やきものをもっと身近に！」

～達人が語る陶芸の世界～

日時／11月6日(土) 受付 12:30～

会場／赤池町同和対策中央研修所

国民文化祭協賛事業 上野焼陶器まつり

期間／11月6日(土)～14日(日)



↑ 10月10日に町民会館前で行われた山笠競演会。小雨が落ちるなか、全5基が一堂に会し、豪快なパフォーマンスを披露した。一番手を担った十区の山笠。  
← 囃子の練習は子どもたちを中心に行われる。地区の大人や青年が指導にあたる。写真右は数多くの山笠人を育ててきた指導者、山末道紀さん（岩屋組）。

# 担い手を育て続ける伝統区

十区

飾り▽合戦富田城

山笠競演会場でひと言

「雨で残念！」

池田義介さん（中組）



町内随一の歴史を誇る「祭り」の地盤

十区の法被は、白地の背に真紅の昇り鯉がトレードマーク。セピア色した古い祭りの記録写真にも、この昇り鯉を確認することができる。今年の統一秋祭りに参加した5基のなかで、最も歴史ある十区の山笠だ。

「うちはね、三つの伝統行事で地域が繋がっているんです」と池永恭輔区長。

夏には先祖を供養する「盆踊り」、氏神である岩屋神社で神の帰社を待つ冬の「神待ち」、そして秋は豊作を祈願する「祭り」。この三大行事は十区に欠かすことのできない伝統的な催しとなっている。例年、多くの参加があり、子どもから年輩者まで、男女問わず、幅広い年齢層のコミュニケーションが図られている。

そんな伝統区の主力行事というところで、期待充分であろう今年の山笠について、青壮年の会長・池田義介さんに訪ねてみた。すると、意外な答えが返ってきた。

「十区には大小それぞれの台車があるけど、今年は小さい方で行きます。山の引き手が減ったからね。」

多くの山笠人を育成してきた十区。今年、その若者たちが主力となって「赤池山笠云」を立ち上げたのである。人手不足の理由はそれに尽きる。

「うれしい反面、少しさみしい」と笑った池田さん。子を巣立たせた親心にも似た心境なのだろう。

十区は地域に根ざした伝統行事を受け継ぎ、ゆるぎない祭りの地盤を今に誇っている。



闇夜に浮かび上がった赤池山笠会の夜山

# 特集 山笠

絢爛な山笠が練り、囃子が雅な音色を響かせる祭り。このわずか二日間の祭事を迎えるまでに多数の人力が必要となる。山笠にはコミュニティのまとまりや人と人とのつながりが不可欠だ。10月9日と10日に行われた2年に一度の「統一秋祭り」。町内をにぎわせた5基を山笠競演の順に紹介していく。